

長野県立美術館

NAM コレクション 2023「新収蔵品展」

長野県立美術館では、前身の旧・長野県信濃美術館から、長野県ゆかりの作家や文化を顕彰する活動の一環として、すぐれた作品の収集に努めてきました。このたび、戦後美術を中心とした新収蔵作品 13 点をご紹介します。

- 1 期 間** 2023年(令和5年)4月22日(土)～2023年(令和5年)6月18日(日)
*休館日＝水曜日(5/3は祝日のため開館)
- 2 場 所** 長野県立美術館 1F 展示室1 (長野市箱清水 1-4-4 善光寺東隣)
- 3 開館時間** 9:00～17:00(展示室への最終入場は 16:30)
- 4 観 覧 料** (本館・東山魁夷館共通)
一般 700 円、大学生及び 75 歳以上 500 円
高校生以下又は 18 歳未満無料

■内 容

1 日本の現代美術を代表する、県ゆかりの作家作品の紹介

<辰野登恵子>

長野県岡谷市生まれ(1950～2014)の画家。東京芸術大学、同大学院を卒業。多摩美術大学教授も勤め、名実ともに日本現代美術を代表する画家のひとり。1970年代にグリッドやストライプをモチーフとした版画で注目され、80年代以降は豊かな色彩の有機的なフォルムで抽象絵画の世界を追求しました。《WORK 82-P-35》(1982年)[図1]は、その初期の制作に共通する、鋼鉄製の階段の写真に由来する花柄の模様や、タイル壁に由来する菱形のパターンといった連続するシンプルなモチーフにより、複雑な絵画空間やイリュージョンを生み出すことを試みています。《UNTITLED 91-20》(1991年)[図2]は、幾何学的な形象を中心に画面を構成し始めた、90年代初頭の作品です。作家が好んで用いたモチーフである菱形が使われており、この年代を代表する作品のひとつといえます。

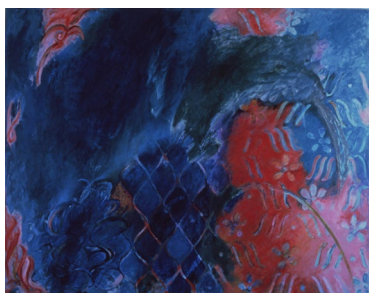


図1 辰野登恵子《WORK 82-P-35》(1982年)

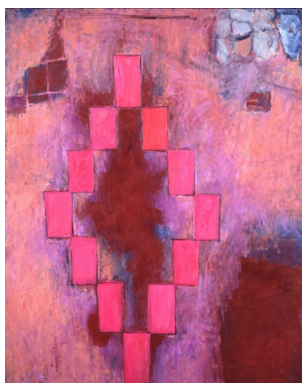


図2

辰野登恵子《UNTITLED 91-20》(1991年)

<戸谷成雄>

長野県上水内郡小川村生まれ(1947~)の日本を代表する現代彫刻家。愛知県立芸術大学、同大学院を修了。武蔵野美術大学彫刻科名誉教授。チェーンソーで木材を刻む木彫作品を中心に「もの派」以降の「彫刻」の在り方を組み直し、問題提起を続けてきました。《射影体》(2004年)[図3]には、戸谷成雄の重要な彫刻的思考である、森のおよび幾何学的な構造と、影の問題が反映されており、彫刻技術においても円熟した時期の代表的な作品です。



図3 戸谷成雄《射影体》(2004年)
撮影：山本紉

<小松美羽>

長野県坂城町生まれ(1984~)の現代美術家。銅版画やアクリル画を手掛け、近年は東京と信州を拠点にアジア各国で個展、ライブペインティング等多方面の活動を展開しています。銅版画の技術に身に着けた作家は、2012年頃からアクリル絵具や墨等による大型絵画に取り組み始めました。《灯し続け、歩き続け》(2016年)[図4]は、銅版画の本領というべき緻密な線による表現を絵画へ移し入れたこの時期の代表作といえるもので、2016年に行われた「G7長野県・軽井沢交通大臣会合」のために制作されました。

G7 長野県軽井沢外務大臣会合開催記念
小松美羽《灯し続け、歩き続け》(2016年)の公開
軽井沢町で開催されるG7「外務大臣会合」(2023年4月16日~18日)にあわせて《灯し続け、歩き続け》を特別公開いたします。
期間は2023年4月13日(木)から18日(火)です。
会場:長野県立美術館 1階 オープンギャラリー
開催時間:9時~17時 観覧料:無料
お問合せ:長野県 県民文化部 TEL026-235-7282



図4 小松美羽《灯し続け、歩き続け》(2016年)

2 信濃デッサン館コレクションより——「地の会」の日本画

2018年より無期限休館となり、長野県立美術館へと寄贈、売却された信濃デッサン館コレクションより、日本画の公募団体・創画会の会員有志7人により1985年に結成された「地の会」の大森運夫、小嶋悠司、滝沢具幸、毛利武彦、渡辺学の5人の作品を展示します。作品はそれぞれに表現の方法や思想を異にしていますが、用いている画材——岩絵具や金箔や、胡粉などの素材を主とする膠彩、麻布・麻紙——からは、信濃デッサン館の館主である窪島誠一郎氏によって名づけられたこの会の名をほうふつとさせるような、大地の匂いが感じられます。

●新収蔵品展—出品作家

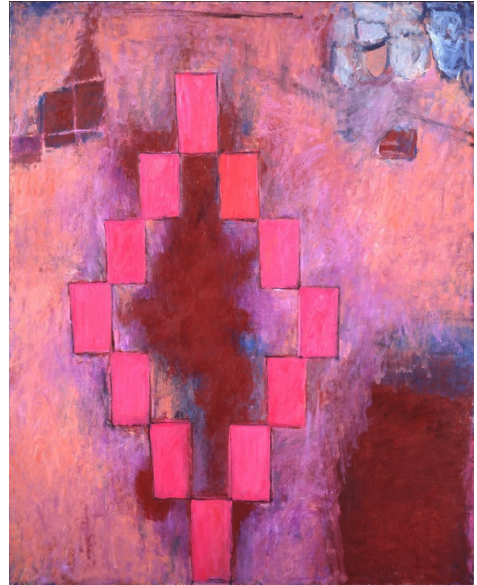
大森運夫・小嶋悠司・小松美羽・杉山寧・滝沢具幸・辰野登恵子・土谷武・戸谷成雄・野見山暁治
毛利武彦・渡辺学

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メールまたはファックスにてお申し込みください。

広報用画像



①辰野登恵子《WORK 82-P-35》（1982年）



②辰野登恵子《UNTITLED 91-20》（1991年）



③戸谷成雄《射影体》（2004年）撮影：山本紉



④小松美羽《灯し続け、歩き続け》（2016年）

長野県立美術館 行

メール：nam-pr@naganobunka.or.jp FAX 026-232-0050

広報用画像申込書

NAM コレクション 2023 「新収蔵品展」

会期：2023年4月22日(土)～2023年6月18日(日)

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。(下記以外の作品画像をご希望の場合はご相談ください。)

○をつけて ください↓		番号	画像名
	①		辰野登恵子《WORK 82-P-35》(1982年)
	②		辰野登恵子《UNTITLED 91-20》(1991年)
	③		戸谷成雄《射影体》(2004年) 撮影：山本糾
	④		小松美羽《灯し続け、歩き続け》(2016年)

●貴社についてお知らせください

貴社名 / 媒体名(雑誌、番組名等)

ご担当者名 / 所属部署

ご住所 〒

電話 / FAX

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日()に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を1部ご惠贈いただければ幸いです。

長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum長野県立美術館
(副館長)米山秀明
(学芸課 展覧会担当)鈴木幸野
(広報担当)日野麻由美
(電話)026-232-0052 (FAX)026-232-0050
(H P)<https://nagano.art.museum/>
(MAIL)nam-pr@naganobunka.or.jp